

国際連合

A/HRC/37/NGO/16

管轄：一般

2018年2月2日

英語のみ

国連人権理事会

第37回目の会合

2018年2月26日－3月23日

議事項目4

理事会の注目を要する人権の状況

協議資格をもつ非営利団体 Coordination des Associations et des Particuliers pour la Liberté de Conscience（自由と良心のための個人連携団体）により 提出された文書

事務総長は経済社会理事会の決議（1996/31）に従い、提出された以下の声明書を受理した。

[2018年1月28日]

NGOが提出した言語のみで、編集を加えずに発行。

GE.18-01574(E)

宗教の迫害による中国からの難民（全能神教会）が欧州で難民申請を拒否される

1. 我々は全能神教会と呼ばれる宗教団体の信者に関する問題を提起したい。全能神教会は 1991 年に中国で創設された新興宗教団体である。
2. 中国の公式な情報筋によると、全能神教会は約 400 万人の信者を抱えている [1]。全能神教会は遅くとも 1995 年以降、中国で活動を禁止され、弾圧を受けている [2]。
3. その後、中国政府はマクドナルドで夕食を取っていた女性が殺害された 2014 年の事件を含む、様々な犯罪に関して全能神教会を非難するようになった。研究者による調査から、この事件は全能神教会の信頼を貶めるために拡散されたフェイクニュースの甚だしい一例にすぎないことが証明されたものの、一部の欧米のメディアはこの非難を繰り返し報道している。事実、マクドナルドでの殺人事件の犯人たちは、「全能神」という名称を用いていたが、全能神教会の信者ではなく、異なる信仰を持っていた [3]。全能神教会に対するその他のデマも、著名な研究者が執筆した調査報告書によりフェイクニュースであることが判明している [4]。
4. 中国刑法第 300 条は、邪教での活動を犯罪と規定している。邪教という表現は「邪悪のカルト」と翻訳されることもあるが、起源は明の時代にまで遡り、「異端の教え」または政府に認められていない教えを意味する。中国刑法の英語版は中華人民共和国国連およびその他国際組織のウィーン常駐代表によって公開されている [5]。英語版の第 300 条を訳すと次のようになる。「迷信に基づく団体（邪教）、秘密結社および邪悪な宗教団体を組織して利用する者、または迷信を利用して国家の法律および施行規則の執行を妨害する者は、3 年以上 7 年以下の懲役刑に処し、状況が特に深刻な場合は、7 年以上の懲役刑に処す」。ここでの「利用する」とは、実際には「活動する」ことを意味しており、中国の法廷も一貫してこの解釈を採用している [6]。「とりわけ状況が重大」と言及することで、さらに厳しい罰則を科すことができる。
5. 実際には、中国では邪教と見なされている団体は、1995 年以降、宗教の「違法組織」のリストに掲載されており、このリストは定期的に更新されている。全能神教会の名前はこのリストに常に登場する [7]
6. 全能神教会は内部統計から、同団体の 38 万 380 人の信者が 2011 年から 2013 年の短期間に中国国内で逮捕されたとしている [8]。同団体は 3 万 6572 件の逮捕の情報を公開している [9]。NGO として評判の高いフリーダム・ハウス（Freedom House）は 2014 年から 2016 年にかけて中国で「異端の教え」に所属するとして、弾圧を受けた者の 8 割が全能神教会の信者であったと報告している。

7. また、全能神教会は非常に不審な状況下で拘留中に信者が死亡した、または拷問を受けた複数件の事例を非難している [10]。我々はこれらの証言の信憑性は高く評価できるとしている。いずれにせよ言及されている複数の事例は、少なくとも第三者による調査が必要である。中国での全能神教会に対する弾圧の範囲と向けられた敵対心は、前例を見ないレベルであり、現代における世界有数の信教の自由の侵害といえる。そのうえ、韓国のように全能神教会の信者の難民申請を、様々な理由をつけてほぼ全て拒否する国もあれば、フランスやイタリア等、大半の申請を拒否する国も存在する。

8. 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)による 2004 年版国際的保護に関する指針：宗教を理由とした難民申請 [11] は、国家が迫害の証拠を個々の難民申請者に要求することはできないと明示している。個人が「事実に基づく迫害の恐怖心」を感じていることを証明するだけで十分である。中国の全能神教会の信者が、全能神教会の信者というだけで、確固たる事実に基づく恐怖心を抱いていることは極めて明白だ。全能神教会の信者であることが露見すると、全ての信者は逮捕や投獄に直面する。

9. 一部の国の難民対応機関は、全能神教会の信者が、街や村から別の場所に移動し、数年間にわたり逮捕を免れてきた事実は、弾圧を受けていない証拠だとして反対している。我々はこの主張に異議を唱える。上述したとおり、全能神教会は中国国内に数百万人の信者を抱え、弾圧対象のその他の宗教団体と同じように地下で活動し、当局により全能神教会の信者であることが特定されている仲間の信者を隠せるだけの強固なネットワークを確立している。しかし、自宅がない状態で、常に逮捕される恐怖を抱えながら頻りに移動しなければならない現実には、国際的な協定が定める「弾圧の恐怖」に他ならない。

10. 我々は、難民申請者が自分の宗教を十分に把握していないと指摘されたり、本当に全能神教会の信者かどうか疑われたりする事例も確認している。UNHCR の 2004 年版指針の 30 章は「教義や活動の知識をほとんど、または、全く持っていなくても宗教が原因で迫害を受ける可能性がある。知識の欠如は、当該分野の宗教の特定の活動に関する追加の調査を行うことで、または、請求者の主張の主観的および個人的な側面を理解することで、明らかになることがある」と記している。一部の事例では、難民申請者が「情報源」に描写されている教義に従っていない印象を受ける。ただし、ここで言う「情報源」とは、全能神教会で規範とされる聖典でも、学術文献の一部でもない。移民を担当する当局は、メディアの記事に言及することが多いが、これは中国政府の情報源、および、カナダ移民および難民委員会の過去の報告書を翻訳するか、繰り返しているだけに過ぎない。この報告書は UNHCR のデータベースで提供されているものの、UNHCR の公式文書ではない。カナダの移民および難民委員会の行った取り組みは重要だが、この報告は 2014 年のものであり、当時はメディアと中国政府しか情報源はなかった。

11. 全能神教会が全能神の受肉した存在とする女性の名前を挙げる事ができない、もしくは、全能神教会の聖霊に使われる者、もしくは祭司である趙維山（チョウ・ウェイシャン）氏の役割を説明することができないため、同団体のことを理解していないと難民申請者が非難されたことがあった。この非難は全能神教会の教義に関する誤解から生じている。全能神教会の教義は、全能神の受肉した人間に注目が集まると、救済に不可欠な唯一の事、つまり言葉から関心がそれてしまう可能性があると言っている。全能神の生まれ変わりが誰なのかを議論しないこと、その名前を挙げないことは全能神教会の神学と精神性の一部である。また、全能神教会は運営面を統括する趙維山氏に関する個人カルトになることを絶対に避ける努力をしている。研究者たちは信者たちが趙氏の指導や説教について話し合う際、単に「兄弟」と呼んでいることを把握している。

12. 我々は中国の当局やその支援者が、全能神教会は宗教ではなく罪に問われる邪教（カルト）であると主張し、同団体の信者の難民認定に反対していることをよく理解している。しかし、「宗教」と「カルト」の間に広く受けられている科学的な区別は存在せず、また「カルト」は別の宗教団体や政府が認めていない宗教を差別する便利なラベルとしても用いられることが多い。「カルト」非難の一環として、一部の国の難民担当機関は、全能神教会が「反家族」と主張する「情報源」に依拠しているため、家族により改宗を薦められ、その後家族によって保護されているとする、全能神教会の信者の発言に懐疑的である。しかし、研究者たちは、これらは「カルト」のレッテルを貼るステレオタイプの批判に過ぎず、その他の多くの宗教と同じように、全能神教会の改宗、ネットワークの構築は家族の間で行われていると結論づけている。

どのような宗教であれ、既存の家族のネットワークを利用した運営を行わなければ、20年という短期間で数百万人の信者を獲得することは不可能だ。上述した通り、犯罪行為に関する批判に対しては、世界的に知られた新興宗教運動の研究者たちが、全能神教会に対する非難を、弾圧を正当化するためのフェイクニュースによるプロパガンダであると考察している（上述のとおり）。いずれにせよ難民申請者は、いかなる犯罪にも個人的に参加した罪に問われていない。たとえ邪教として弾圧を受ける団体の一員として犯罪行為に問われたとしても（実際には問われていない）、中国では公平な裁判を期待できない。

13. 先述の報告書にもかかわらず、カナダでは同様の事例において、100人以上の難民申請者を認定している。

14. 上記の理由から、我々は中国での全能神教会への深刻な弾圧、そして、中国での迫害から逃げてきた全能神教会の信者を難民として認定することを一貫して拒み、さらにひどい例では逮捕と勾留、またはそれ以上の深刻な状況に見舞われる可能性のある中国に強制送還すると脅す行為を取る、韓国を含む国々が作り出している人権問題に、謹んで注意を呼び掛けたい所存である。

- [1] 再現された文書 : <https://bit.ly/2redooK>.
- [2] 1995 年の日付がある文書 : <https://bit.ly/2v6uQgy>.
- [3] Introvigne, Massimo. 2017a. “Cruel Killing, Brutal Killing, Kill the Beast’: Investigating the 2014 McDonald’s ‘Cult Murder’ in Zhaoyuan.” *The Journal of CESNUR* 1(1): 61-73. DOI: 10.26338/tjoc.2017.1.1.6. Introvigne, Massimo and David Bromley. 2017. “The Lü Yingchun/Zhang Fan Group.” *World Religions and Spirituality Project*. Virginia Commonwealth University, October 16, 2017. <https://wrldrels.org/2017/10/16/lu-yingchun-zhang-fan-group>.
- [4] 例 Folk, Holly. 2017. “‘Cult Crimes’ and Fake News: Eye-Gouging in Shanxi.” *The Journal of CESNUR* 1(2): 96-109. DOI: 10.26338/tjoc.2017.1.2.5.
- [5] <https://bit.ly/2Hvjg0>.
- [6] 例 <https://bit.ly/2IyldPI>.
- [7] 再度参照 : <https://bit.ly/2v6uQgy>. または <https://bit.ly/2KAsG34> (研究者向け)。
- [8] 参照 : http://www.cesnur.org/2017/almighty_china_report.pdf.
- [9] 参照 : <https://www.godfootsteps.org/proofs>.
- [10] http://www.cesnur.org/2017/almighty_china_report.pdf.
- [11] UNHCR. 2004. *Guidelines on International Protection: Religion-Based Refugee Claims*.

国連の公式サイトで確認できます <https://undocs.org/A/HRC/37/NGO/16>